巻頭言

教育のＤＸ化と人と人との顔が見える関係

情報教育センター所長
石橋　潔

情報教育センターでは、御井キャンパス全域の無線ＬＡＮアクセスポイントを増設し、昨年度から多人数教室においても端末の同時アクセスを可能としました。また、授業オンライン動画配信のためのシステムを拡充し、教育におけるＤＸ（デジタルトランスフォーメンション）化をサポートしようとしています。その点で、今後の情報教育センターの役割は、狭い意味での情報教育ではなく、大学教育一般のデジタル化をサポートすることに軸足を移していくことになるだろうと思います。

今回のコンピュータジャーナルでも、こうした取り組みを論じる投稿が増えてきているように思います。おそらく今後は、文系理系を問わず、また一般教室かパソコンを配備した教室かを問わず、より質の高い教育を目指すためにどのように教育をＤＸ化するか、一人ひとりの教職員が考えていく時代となっていくでしょう。

おそらくこの教育におけるＤＸ化は同時に、教育における教員と学生の人間的な結びつきの必要性を考えることになるでしょう。学ぶに価値のあるものを伝えるという教育の側面には『人と人との顔が見える関係』が欠かせないようです。そうすると、教育におけるＤＸ化とは、この『人と人との顔が見える関係』の特質を、どのように活かしサポートしていくかという仕組みの構築を考える作業が不可欠のように思います。

このコンピュータジャーナルも、これから狭い意味での情報教育の研究や教育実践だけでなく、幅広い教育におけるＤＸ化を取り上げていきたいと考えています。